

## 鹿児島県における子ども食堂のとりくみ

田中 かすみ [ 星ヶ峯 子ども食堂 ]

古里 なおみ [ 子ども食堂 in かのや「しいちゃん家」 ]

齋藤 美保子 [ 鹿児島大学教育学系 (家政教育) ]

Initiatives of the “Children's Cafeteria” in Kagoshima Prefecture

TANAKA Kasumi, FURUSATO Naomi and SAITO Mihoko

キーワード：子ども食堂、鹿児島県、地域、孤食、貧困

### 1. はじめに

子どもの貧困対策のひとつとして、「こども食堂」が今や2,200以上も全国に広がっている。当初は「貧困対策」の一つとして、始まったことが確かだが、今日では、食事提供だけでなく地域住民のコミュニティの拠点としての役割が強くなってきている。今から、3年前、鹿児島県では、「子どもの貧困率」が日本におけるワースト3という事に、衝撃が走った<sup>1)</sup>。このような状況から、お腹を減らしている子には食事を提供し、そして個孤食を軽減する対策として庶民の運動で起こったのが「子ども食堂」である。鹿児島の最初の子ども食堂を手掛けたのは筆者代表の「森の玉里子ども食堂」である<sup>2)</sup>。今や鹿児島では筆者調査では、42に至っている<sup>3)</sup>。鹿児島県では、確かに子ども食堂の立ち上げは遅かったが、数としてそして月2回の常時開設が多いのは、全国でも異例であり、九州の中でも一番多く、このように多大な成果を生んでいる<sup>4)</sup>。

このような状況と同時に、「広がれ、こども食堂の輪！ in かごしま」(題名)として、講演会及びパネルディスカッションなどの内容で、鹿児島県での子ども食堂主催で2017年10月にイベントを行った<sup>4)</sup>。このような中で、子ども食堂関係者などから多様な声や課題が見えてきた。それらは、「食材の循環」「資金源」「ボランティア不足」などである。例えば、食材の循環では、そのほとんどが善意での提供であるため、ある食材が多かったり、逆に少なかったりして食事内容が安定的ではない、「倉庫がほしい」などの要望があった(鹿児島市では倉庫は確保した)。また、個人で行っている子ども食堂の場合は、利用者が多いため、食事の供給不足という事態もあるとのことである。このような状況把握から、問題解決の方法・交流の必要性から、鹿児島県全体のネットワーク創設に至っている。

そこで、数多い子ども食堂の中でもネットワークに属さないが、ユニークな活動をしておられる子ども食堂を、2つ選択させていただき、日ごろの活動や設立の思いを報告したい。

## 2. ほしがみね☆みんなの食堂

### (1) 食堂開店までの経緯

「ほしがみね☆みんなの食堂」は、2017年4月に、月1回第4土曜日開店した。料金は高校生までは無料、大人は300円という格安である。場所は福祉館を利用し、運営資金は「資源回収活動」つまりリサイクルを行い、資金に充てているという数少ない食堂と自負している。他の子ども食堂の場合は寄付金・助成金・会費で賄うのに対して環境意識を高めつつ、実践している事もこの食堂の特徴である。

運営代表の田中(著者)は、3人の子どもをひとり親で育て、両親の援助もなく子どもには朝はおにぎり、時には車の中で食べさせたり、保育園の入り口で開演前に食べさせたりなど・・・夕食には近くの惣菜ばかり子どもに食べさせたと自責の念でいっぱいであった。しかし、休日となればゆっくり、ゆったりとした食卓を囲んだことは子どもは覚えているようで、子ども食堂と聞いた時は一瞬にしてそんな昔を思い出した次第である。こうした自責の念もあり、子どもにはそのような大人の都合で振り回したくない、という思いもこの活動をする原点と考えている。

2016年「豊島 WAKUWAKU 子ども食堂」の話聞く機会があり、この日に初めて子ども食堂の存在を知った。ちょうどそのころ、「地域の居場所」として高齢者の集いの場を数人で運営し、1年ほど経っていた。おにぎり汁だけなら、料理が苦手な私でもできるかとも思い、また、孤食をなくせたら! 高齢者も若い人も・・・地域の人たちと食事ができる場所を作りたいと考えた。賛同していただける仲間を求め延べ人数200人くらいと対話した。そこで明らかになったことは次のようにまとめることができる。「貧困はない」「食事は親の責任」「あなたがしなくとも行政がやるべきこと」「そんな暇があったら、働いて公営住宅を出たら?国の世話になっているじゃない?」など現状認識の薄さがある一方、貧困自己責任論や家族責任が色濃かった。この点は、今後の活動の争点ではないかと考える次第である。

### (2) 食堂開店の方法と内容ー地域貢献、子どもや家族の支援

#### ① 食材の確保と食事のバラエティさ



(写真1: みんなの食堂の食事内容)

食材はほとんど買うことが多いが、お米と味噌・醤油は寄付で賄っている。

時には他の子ども食堂からの「お菓子」の提供がある。

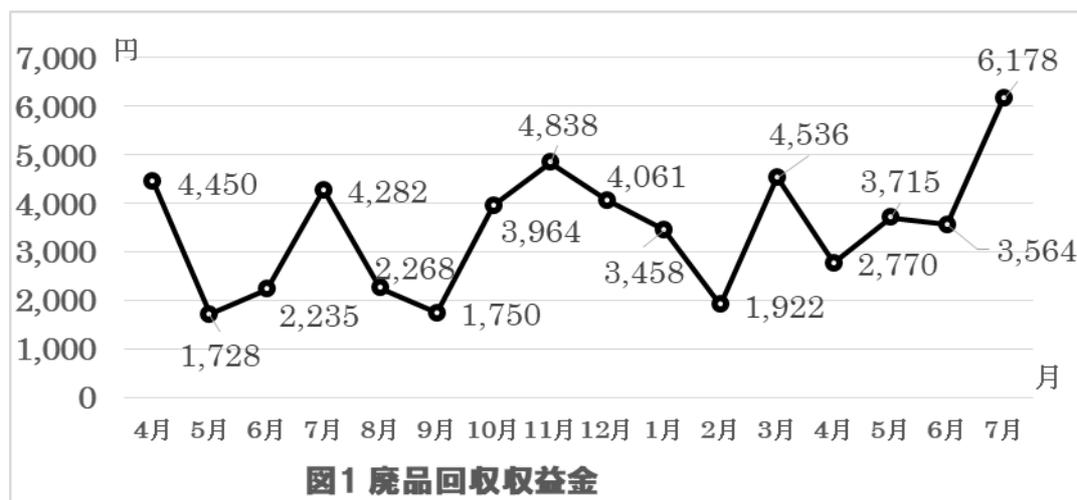
## ②ボランティアスタッフの奮闘と子どもたち及び利用者の状況変化

さて、5月からチラシの配布や口コミなどから利用者が増えてきた。利用者の割合に対してスタッフが追いついていないことがあり、利用者には大変迷惑をかけてきた。ただ、福祉館の調理環境は、5人ほど人が入ると狭く身動きが取れない状態なのには閉口した。それでも盛り付けや利用者自ら手伝いもあり、頑張ったのが実感である。

子どもたちも自らテーブルクロスを並べたり、片づけを行ったり、地域で出会ったときは、「食堂のおばちゃん」と駆け寄って親しく声をかけてくれるようになった。参加者が少ないころは、一緒食事をしながら、ご家庭の事情を聞き、3名の方々には数か月にわたり、味噌・醤油・お米を宅配した(今は子ども宅食という)。その中でも「夫が就職できた」、若いママから、「子どもを皆さんに抱いてもらってうれしかった」「ゆっくりご飯が食べられた」などという感想やひとり暮らしの高齢者も「孫が近くにいないから、赤ちゃんを抱けてうれしい」と肯定的なご意見が多くなった。もちろん、このような感想・ご意見から一緒に喜びを共有し分かち合えることがなによりもうれしいことである。

## ③廃品回収と認知症サポーター

私たちは、財政を廃品回収で賄っていることを冒頭で述べた。古新聞やアルミ缶を収集しながら、食事の話や世間話をしている。意外かもしれないが廃品回収を行いながら各家庭を訪問し、声掛けを行いながら世間話をするのである。また、スタッフ5名が鹿児島市の講習会「見守りメイト」を受講し、ほとんどのスタッフが認知症サポーターとなっている。このことは、いわば地域のサポートとしての役割を担っているといっても過言でない。人の孤立防止にも役立ち、かつ廃品回収における収益金もだんだんと上昇しつつある(図1)。



## ④学習支援や平和教育

今年7月になり、初めての「学習支援」を行った。小学生4人、高校生1人に対し、鹿児島大学医学部学生5人が対応していただいた。食事もさながら、「水をつかもう」という実験は、子どもたちに大変好評で何度もなんどもせがんで行っていた。また、7月末には、野外での五感を使っでの自然体験を行った(写真2)。そのあと、昔の戦争の話や原爆の紙芝居を見て、みんなで千羽鶴を折

り、平和を願った(写真 3)。高齢者の戦争体験を語りつぐという事も地域では数少なくなってきた  
おり、平和を託すのは次世代の子どもであることに思いを託したのである。



(写真 2 : 野外の自然体験)



(写真 3 : 千羽鶴を折る)

### (3) ほしがみね☆みんなの食堂の願い

今年6月には利用者が60名を超え、ただ食事提供だけでよいのかというスタッフとの話し合いを契機に今後はまだまだ手探りの中にある。「困っている」「助けてほしい」といえる場所になりたい。そして子どもたちには多様な体験や知識を得てもらいたいと願わずにはいられない。子どもが主人公というコンセプトとして毎月の「誕生会」も始めている。当初「月1回でなにができるのか」というご批判に対し、逆にそれに対して超える実践をしたいと考えてきている。ただ、スタッフもそれぞれに多忙で、スタッフの増加を望み、話し相手や遊び相手になればと考えている。そしてみんなが「夢を語れる場所」にしたいのが「私たちの夢」であることに変わりはない。

### 3. 3年目の子ども食堂を迎えて—子ども食堂 in かのや「しいちゃん家」

#### (1) 子ども食堂を始めたきっかけ

「都道府県別子どもの貧困率2012年調査」によると、鹿児島県の子どもの貧困率は、沖縄の37.5%、大阪の21.8%について20.6%と全国ワースト3位である<sup>5)</sup>。これは、鹿児島県では子どもの5人に1人が相対的な貧困状態にあることを示している。鹿屋市においても相対的な貧困状態にある子どもの存在は容易に想像できる。同じ問題意識をもった女性4人が集まり、とりあえず子ども食堂をやってみようとして立ち上げた。このような子どもの置かれている厳しい状況に関心を持ち、地域の課題として認識することは重要であると考え、子ども食堂を始めた。



(写真4：パッチワークキルト)



(写真5：しいちゃん家)

#### (2) 子ども食堂の運営から

##### 1) 子ども食堂の様子

2016年7月に「子ども食堂inかのや しいちゃん家」の活動を始め、夏休み冬休み春休みの日曜日に開催し、今年で3年目を迎え、鹿児島県では子ども食堂は2店舗目である。「貧困」について考えると「相対的貧困」は非常に見えにくい「貧困」だといわれている。事実、子どもだけで食事に来るきょうだいがいたり、ひとり親（父子）家庭ではないかと思われる家族もあった。その中でもひとり暮らしの高齢者の来店が増えたのは予想外だった。こうして考えると「老いも若きも」みな地域の居場所になりつつあるのかもしれない。

利用者の数は、ほしがみね☆みんなの食堂と同様に平均40名で、どちらかという子どもより大人の利用者が若干多く、徐々にではあるが、増加しつつある。

今年度も子どもが1人でも来ることができる食堂、子どもだけでなく誰でも一緒に安価に食事ができる食堂を継続して開催し、おいしいものをみんなで一緒に食べる喜びや食への関心を持てるような、食を通じて地域の老若男女が楽しく集える場所をつくることを目標にスタッフ一同頑張っている。



(写真6： ボランティアの様子)

## 2) 運営とその財源

①食材確保の方法・・・1年目始めた時には、まず食器を友人知人とチラシでの声かけで集めた。食材も友人知人に声をかけてご紹介を頂き、地元企業にお願いに行きお米、味噌醤油、魚の提供などを受けた。また個人の方々が野菜を作っている方からいただき、新聞などに掲載されたためにお中元のハムをいただいた。

今年は3年目ということもあり、こちらからお願いしなくても、お電話いただくことも増えてきました。ずいぶん浸透してきたのかと思われる。

地域住民のご協力から、豊富な食材とメニューができ、スタッフも利用者も毎回作るのも楽しみ、食べるのも楽しみである(写真7)。



(写真7： 豊富な食材・メニュー)

この夏休みは牛乳を毎回提供いただきました。最初は牛乳カンくらいでしたが、今回はキッシュやグラタンも作りました。

また、表のようにレシピも多く、また調理指導もあるので、わが食堂の自慢の一つである。

表 2018年度 子ども食堂 in かのや「しいちゃん家」メニュー

春休み

4月 1日	ご飯	チンジャオロース	マグロのカツとタルタルソース
	カレー	唐揚げ	つわの炒めもの
	ししゃも	里芋の芋煮	ポテトサラダ

夏休み

7月 22日	ご飯	鶏のから揚げ	豚のほほ肉の紅茶煮
	カレー	ししゃものふっくら焼き	なすとトマトのベーコン煮
	冷や汁	麻婆豆腐	モロヘイヤのおひたし
	牛乳	卵焼き	ゴーヤの酢の物
	牛乳カン	ポテトサラダ	筍と椎茸のオイスター炒め
7月 29日	ご飯	鶏の唐揚げ	ししゃものふっくら焼き
	カレー	ポテトサラダ	トマトとナスベーコンの煮物
	牛乳	そうめんサラダ	ポテトチーズ焼き
	牛乳カン	だし巻き卵	揚げとゴーヤの炒め煮
		人参のシリシリ	ビシソワーズ
8月 5日	ご飯	鶏のから揚げ	ジャージャー肉麺
	カレー	エノキの肉巻き	かぼちゃの冷ポタージュ
	梅干し	ししゃものふっくら焼き	ゴーヤの梅干し和え
	冷しゃぶ	ポテトサラダ	じゃがバター
	スイカ	だし巻き卵	トマトとベーコンのパスタ
	ぶどう	焼きナス	
8月 19日	ご飯	唐揚げ	ししゃものふっくら焼き
	カレー	揚げだしナス	ゴーヤの梅甘酢和え
	パン	ポテトサラダ	たらこスパゲティ
	牛乳	にら玉	エノキのくるくる肉巻き
		じゃがチーズ	トマトとナスのそうめん
		夏野菜サラダ	かぼちゃの冷スープ
8月 26日	ご飯	ししゃものふっくら焼き	チキン南蛮タルタルソース
	カレー	ポテトサラダ	たらこスパゲティ
	牛乳	餃子	豚しゃぶのごまたれ
		グラタン	トマトパスタ
		キッシュ	冷や汁のそうめん

②財源について・・・1年目赤い羽根基金、2年目鹿屋市助成金とグリーンコープ基金、3年目鹿屋市助成金と公的な支援にたいして応募して財源確保をした。また1年目はサポート会員として一口1500円を集めた。

③ボランティア・・・私たちが恵まれていたのは、当初から給食室で働いている人を調理の中心にお願いしたことである。これは同級生で人柄もわかっていたし、衛生面から野菜の切り方から指導していただきました。設立メンバーの4人が世代も職業も異なるので人脈がそれぞれ異なっていることと、地元の間人ということが強いと思われる。スタッフが足りない時には前日までに把握してSOSでお願いし、常に保管できる体制を整えた。その結果、今年はこちらからお願いしなくても来週は行けますけど とかのメールが届けられることが多くなった。

### (3) 今後に向けて

子ども食堂を実施することで、子どもの貧困への地域の関心を高めるとともに、子ども食堂が、食を楽しみ、食を学び、食を通じて地域の人々が楽しく集える場所となることが期待できる。また、地域の食資源の豊かさ（農畜水産物）への再認識にもつながり、更に鹿屋市内に複数の子ども食堂が広がることで、地域活動が活性化する可能性も期待できる。最初はこちらからお願いして提供いただいた企業なども社会福祉協議会を通して声をかけていただけるようになり、地域の認知度が高まってきている印象を受ける。また鹿屋市のみならず大隅半島で開催しているところとも連携して食材を分け合うなどもできるようになっている。そこで、今年、鹿屋市の3店舗の子ども食堂・



(写真8: 子ども食堂カレンダー)

地域食堂の連携を考えて、利用者が活用できるように「子ども食堂カレンダー」を制作した(写真8)。

#### 4. おわりに

以上2つの子ども食堂・地域食堂の活動を報告させていただいた。

「ほしがみね☆みんなの食堂は」、子ども食堂とはいえ、「自然体験」「平和教育」を行っているユニークな食堂である。これを知らせないのは、大変もったいないばかりか、今後の子ども食堂・地域食堂にとっても損失である。子どもの自然体験だけでなく一般的な体験・経験不足の昨今、豊かな情操を育成するうえで貴重な活動をしているとあって良い。また、地域での紙芝居や語り部からの「戦争」の話、そして体験活動としての千羽鶴を折る活動は、学校教育とも家庭教育とも異なり、老いも若きも学ぶことを共有できるという新しいコミュニティの一つと考えられる。

「しいちゃん家」は春・夏・冬という季節限定ではあるが、地域密着型の子ども食堂である。豊富な食材とスタッフに恵まれ、ここが拠点となり短期間で3つの子ども食堂・地域食堂が開店することになった。日々献身的に活動を行ってきた成果であると思われる、今後、子どもたちが成長した時、地域がよりよく豊かに過ごせると希望が膨らむ。

今回は2つの報告をさせていただいたが、他にも「出前子ども食堂」「遠足」「文化・スポーツ」とその幅は大きくしかも多様な活動をしてきており、異世代間交流という中身や子どもの発達(友人関係・学習)、保護者自身の意識の変化などあらゆる視点で見ていく必要があると考えられる。筆者たちはこれらのことをすでに感覚としてみてきており、今後の子ども食堂のかなめを担う人たちと考えられる。幸い、文部科学省が、「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について（通知）」を行い、「高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展する可能性があり、地域共生社会の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されるように、今後も活動を続けていきたい。

#### 引用文献

- 1) 戸村健作 都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率の検討  
山形大学人文学部研究年報 第13号(2016. 3) 33-53
- 2) 齋藤美保子編著 森の玉里子ども食堂奮闘記—鹿児島発— 2017 南日本出版株式会社  
全頁153
- 3) 広がれ、こども食堂の輪! 全国ツアー in 九州サミット  
[www.fcoop.or.jp/event/kumikatsu/5981](http://www.fcoop.or.jp/event/kumikatsu/5981) (最終閲覧2018/9/3)
- 4) 広がれ、こども食堂の輪! in かごしま  
[www.facebook.com/.../広がれこども食堂の輪全国ツアー](https://www.facebook.com/.../広がれこども食堂の輪全国ツアー). (最終閲覧2018/9/3)

※注 2018年9月3日現在 鹿児島県の子ども食堂・地域食堂は42となっている

	市町村	食堂名
1	鹿児島市	森の玉里子ども食堂
2		天文館こども食堂
3		ナポリ通りのこども食堂
4		ほっぺ食堂
5		しもあらたピッキー食堂
6		はるやま森子ども食堂
7		なごみ
8		みま〜もコミュニティ食堂
9		ほしがみね☆みんなの食堂
10		とそ子ども食堂
11		みんなのオアシス食堂
12		祥徳寺子ども食堂
13		喜入子ども食堂
14		なかす子ども食堂
15		谷山子ども食堂
16	霧島市	ほのぼの食堂
17		子ども食堂お助けマン隼人
18	鹿屋市	子ども食堂 in かのや「しいちゃん家」
19		西原こども食堂
20		ニコニコイベント 子ども食堂
21	出水市	みんなの食堂キッチンハウス さくらんぼ
22		西出水市こども料理教室食堂
23		出水朝こども食堂
24	指宿市	そらまめ食堂
25		5丁目食堂
26	日置市	伊集院こどもふれあい食堂
27	薩摩川内	おばちゃんち
28	曾於市	ふれあい食堂
29	南薩摩市	ばんせい てしおて食堂
30	志布志市	井や和華
31	始良市	なぎさ未来塾ひまわりハウスわいわい食堂
32	南大隅町	佐多子ども食堂
33		茶のん家(け)=いったんもめんと結の会
34		来いやん家=剛家カレー
35	南九州市	そよ風ランチ
36	奄美	ハッピーオーガニック
37		くっかる食堂
38		どくわー食堂
39		みらい子ども食堂
40		子ども食堂 Steddy&C
41	徳之島	こども食堂まごの手
42	屋久島町	やくしま こども食堂